

自治体内でGISやG空間を普及させるために必要な要素 とその要素を活用して挑んだ熊本地震における後方支援

地図のまち（都）北九州！



北九州市総務局情報政策課
塩田 淳

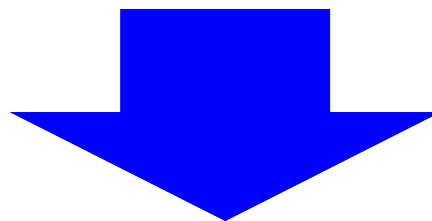
- 1 北九州市が考えるG空間・GISの普及に必要なモノ
- 2 北九州地域におけるG空間のこれまでの歩み
- 3 地理空間情報プラットフォームG-mottyと
地域情報発信メディアG-motty
- 4 熊本地震における後方支援
- 5 北九州地域の今後の動き

目的:『人々の生活をより良くするために』

役所的な言い方に変えると・・・

①業務の効率化・高度化の実現

②住民サービスの向上の実現



手段として必要な
ものは・・・

全庁型GIS

全庁型GIS vs 統合型GIS?

- 災害発生後は、忙しい部局と忙しくない部局が存在するが、災害対応は職員一丸で対応すべき全庁プロジェクトである。
- 全庁型GISとは、情報システム構築、導入だけでなく、庁内での業務改善、創造のための活用（USE）、運用のためのマネジメントや利用促進・ファシリテーション（ガバナンス）、人材育成（Exercise/Training）、やり方、決め事づくり、情報処理（SOP）、技術（Technology）を含む包括的な仕組みのことである。

【出典】兵庫県立大学浦川准教授



全庁型GIS ⊃ 統合型GIS

- 全庁型GIS = {USE, Governance, SOP, Technology, Exercise/Training}
- 統合型GIS = {Technology (ソフトウェア, 共有空間データベース、アプリケーション、操作マニュアル)}
- 全庁型GIS vs 統合型GIS ではなく、
- **全庁型GIS ⊃ 統合型GIS**





1-4 GIS・G空間の普及に必要な要素

No	横展開に必要な要素	要素の詳細
1	コスト	参画自治体による運用コストの予算化
		イニシャルコスト0円 自治体が検討できるよう価格表を作成
2	組織・体制の整備	庁内GISワーキンググループ(自治体ごと)
		GIS広域勉強会 地域GIO
3	標準的な手順処理の確立	COTS(広く普及しているソフトウェア、サービスの活用)
		ジオコーダーの標準化 業務フローの標準化(SOP)
4	適用技術	クラウドの活用(自治体クラウドと民間クラウドのマッシュアップ)
		COTSにより、バージョンアップで常に最新のApps利用
5	人材育成	庁内GIS-WGや地域GIO会議でのSOPまで含めた能力向上
		大学や民間企業との連携 率先的住民参画
6	情報システムの利活用	庁内GIS-WGや地域GIO会議で検討したSOPに基づくシステム
		平常時から災害時の連続性 命を守る対策⇒復興のプロセス

 : 以前から実現、
 : G空間(H26)で実現、
 : 現在実施中、
 : 現在検討中

北九州市がGISに求めるもの(目的)は、『人々の生活をより良くするために(業務の効率化・高度化と住民サービスの向上)』です。

その効果を増大させるためには、幅広い分野の職員がGISを業務に活かす必要があります。平常時からこの環境ができていると災害時にもGISを利活用できると考えています。

⇒実際に熊本地震の後方支援では、日頃からGISを使っていた職員で対応することができました。日頃から使う、時には遊んでおくことが必要だと痛感しました！

そのためには、統合型を含めたGISの技術(Technology)だけでは、GISを利用した業務改善は進みません。そこで、北九州市では、6つの要素が必要と考えています。今回は、コストを除く5つについて紹介します。

①USE

GISを使うことが目的にならないよう業務の中の何にGISを利用(USE)するかを明確にする必要があります。

②Governance

業務改善に取り組むためには、組織の中でGISを利用した業務改善を進めるための体制(Governance)が必要です。

公式化された組織・体制で活動することで庁内・庁外に毅然かつ大胆に動くことができます。

③SOP

業務改善にGISを利用するために業務を分解して、GISを当てはめると効果的な部分を検討した上で、業務の標準化(SOP)をします。

標準化することで、GISを同類の業務に当てはめられるようになります。



④Technology

ここで漸くGISの技術(Technology)が出てきますが、北九州市では、庁内で幅広い業務でGISを利活用するために必要な統合型GISの機能は、データの一元管理だと考えています。そのためにクラウド基盤を利用しています。また、Web GISとDesktop GISなどのアプリケーションやサービスは、既存の製品(COTS)をカスタマイズせずに利用しています。そのため、職員は異動後もGISをWordやExcelのように利用できます。

⑤Exercise/Training

最後にGISを利用できるようにするための研修(Exercise/Training)ですが、職員全員に同じGISの研修をすることをしていません。業務で使用するGISの機能だけを研修しています。もっと良くしたいという職員が更なる業務改善のために高度機能を教えてほしいということを書いてくるようになってきました。



1-8 北九州市の庁内の状況

● 庁内でGISを使いたおすことは当たり前のことなので紹介してきませんでしたでしたが...

庁内で4月1日現在、WebとC/Sで**97**の主題図を業務で管理・更新(職員・委託業務)しています。

業務(データ更新)の中で**当たり前**に

700人以上の職員がArcGISデスクトップを使っています！！

業務所管課からGISを利用した業務改善を行いたいという話が勝手に出てくるようになりました。

GIS導入による費用対効果が平成25年度、平成26年度で**8,300万円**を出すことができました。

職員から地域の方を紹介され、地域の方とのGIS・G空間を利用した連携が始まりました。⇒もちろん**公務で実施**！！



- 1 北九州市が考えるG空間・GISの普及に必要なモノ
- 2 北九州地域におけるG空間のこれまでの歩み
- 3 地理空間情報プラットフォームG-mottyと
地域情報発信メディアG-motty
- 4 熊本地震における後方支援
- 5 北九州地域の今後の動き

●平成23年10月に「北九州市全庁GIS企画書」の作成

北九州市全庁GIS企画書

庁内GISワーキンググループが作成！！

北九州市

庁内GISワーキンググループ
総務企画局情報政策室

目次

- ①ビジョン・達成目標
 - 1 ビジョン・達成目標
 - (1) 北九州市全庁GIS構築のビジョン 1
 - (2) 達成目標 1
- ②現状分析(GIS・地図利用状況調査)
 - (1) 目指すべきこと 2
 - (2) 現状分析 4
 - (3) 目指す北九州市全庁GISの概要 5
 - ①GISエンジン
 - ②ベースマップ
- ③費用対効果
 - (4) 費用対効果 8
- 3 進め方(スケジュール) 8
- ④スケジュール

企画書が欲しいという方がいらっしゃいましたら、後ほど送付いたします。



- ① 業務効率化・高度化指向の全庁的な地理空間情報の活用
- ② 福岡県北東部地域（北九州地域圏）リージョナルコミュニティ形成型GIS
- ③ 庁内で「使われるGIS」
（マニア向けGISからの脱却）
⇒ ITマニア、GISマニアは自己中心的
- ④ 危機に強いまちを作るための地理空間情報の整備



①GIS導入状況調査

②地図利用状況調査

を実施しました。
費用対効果としては、

①個別に入っているGISの運用経費の削減

②ELAの導入によるライセンス料の見直し

③住宅地図等の地図の購入を制限

④周辺自治体との共同利用による費用圧縮

5年間で約6千万円の効果を積算！！

効果種類	平成25年度	平成26年度	累計(千円)
削減効果	68,000	15,000	83,000
削減効果＋抑制効果	145,000	71,000	216,000

※削減効果は、実際に削減した費用から運用費用を引いた実質削減額

※抑制効果は、全庁GISが導入されたことで新規に要望が挙げられたGIS導入・運用にかかる経費を抑制した額



2年間で8,300万円の削減効果
予算要求時の削減効果は1年で達成！

GIS導入前にしっかりと調査を行っていたため、
削減効果を算出することができた！



当たり前のことですが、やっていない自治体が多い…



●平成23年12月からGIS広域勉強会を開催

No	団体名	No	団体名	No	団体名
1	行橋市	12	築上町	23	直方市
2	豊前市	13	田川市	24	鞍手町
3	中間市	14	香春町	25	糸島市
4	芦屋町	15	福岡市	26	添田町
5	水巻町	16	古賀市	27	川崎町
6	遠賀町	17	大宰府市	28	福岡県
7	岡垣町	18	小竹町	29	佐賀県伊万里市
8	苅田町	19	久留米市	30	山口県下関市
9	みやこ町	20	宗像市	31	山口県宇部市
10	吉富町	21	宮若市	32	九州ヒューマンメディア創造センター
11	上毛町	22	須恵町	33	北九州市



共同利用やG空間事業の横展開の推進の目的を持って実施中
(33団体参加・年4回実施)



●平成25年4月から地域GIO制度及び会議の導入



- ◆各自治体内でGISに関する業務の取りまとめ
- ◆GIS広域勉強会の企画・運営
- ◆GISを利用した業務改革・業務フロー標準化検討
- ◆自治体間でのGIS技術の支えあい(研修会開催)

局所的な豪雨で参加自治体が被害を受けた場合に支援に行ける仕組みも構築(KRIPP GIS部会規約に明記)

平成27年度

No	所属名	No	所属名
1	危機管理室危機管理課	8	建設局河川整備課
2	技術監理室技術管理課	9	建築都市局都市計画課
3	財政局固定資産税課	10	建築都市局宅地指導課
4	市民文化スポーツ局安全・安心推進課	11	建築都市局建築審査課
5	環境局循環社会推進課	12	小倉北区役所保護第一課
6	建設局総務課	13	総務企画局情報政策課
7	建設局道路維持課		—



**GISに関係があり、かつやる気のある
所属・メンバーのみを選抜！！**

**建設局が取りまとめ土木系部署を集めたWG
も別途立ちあがって検討を行っている！**



- 1 北九州市が考えるG空間・GISの普及に必要なモノ
- 2 北九州地域におけるG空間のこれまでの歩み
- 3 地理空間情報プラットフォームG-mottyと
地域情報発信メディアG-motty
- 4 熊本地震における後方支援
- 5 北九州地域の今後の動き

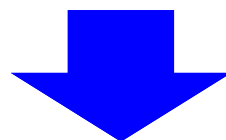
最近色々な媒体が増えてきたので、よく聞かれます！

「G-mottyって地域情報ポータルサイト？」

「G-motty Mobileっていうアプリもあるよね？」

「年1回雑誌も発行してるよね？」

「TVも試してたよね？」

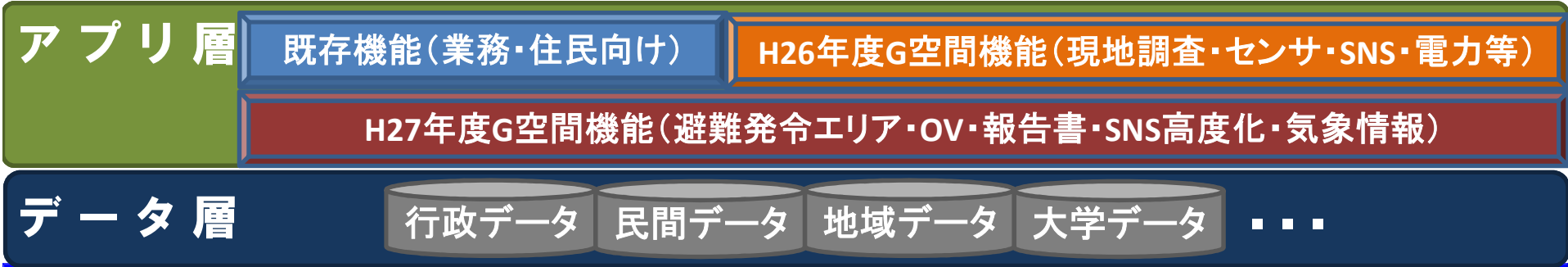


●民間企業、大学、自治体が保有している情報や地域の皆さんが投稿してくれる情報を一元管理した『地理空間情報プラットフォーム』

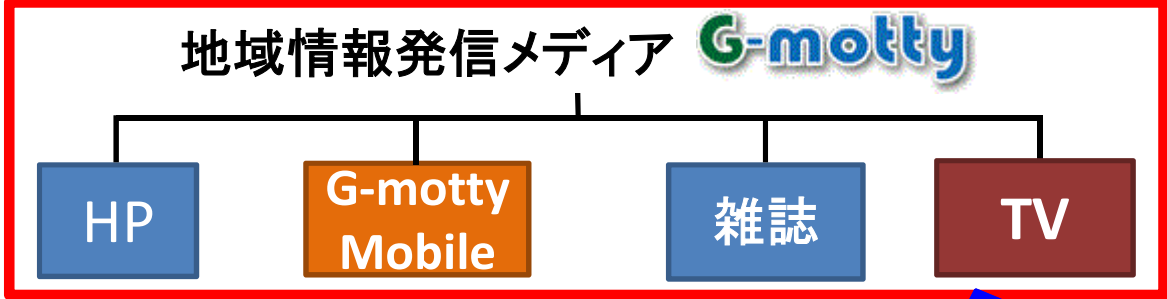
●ポータルサイト、アプリ(G-motty Mobile)、冊子、TVはその情報を発信する又は収集するメディア(媒体)の1つ

重要なことは、情報を一元管理する基盤(土台)とその上にあるコンテンツです！！

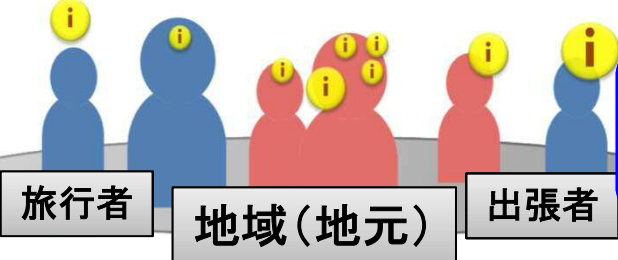
災害時業務
(自治体・民間)



地理空間情報プラットフォーム”G-motty”



- : 以前から実現
- : 昨年度事業で実現
- : 今年度事業で実現



メディアミックスによる
地域情報発信を実現

●北九州市における業務効率化・高度化の状況(2016.4.1時点)

①庁内WebGIS(58主題図)

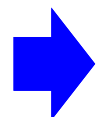
庁内で情報を共有するために誰でも見ることができるGIS

②庁内C/S型GIS(39主題図)

業務でデータの更新を行うGIS

③G-motty(31主題図)

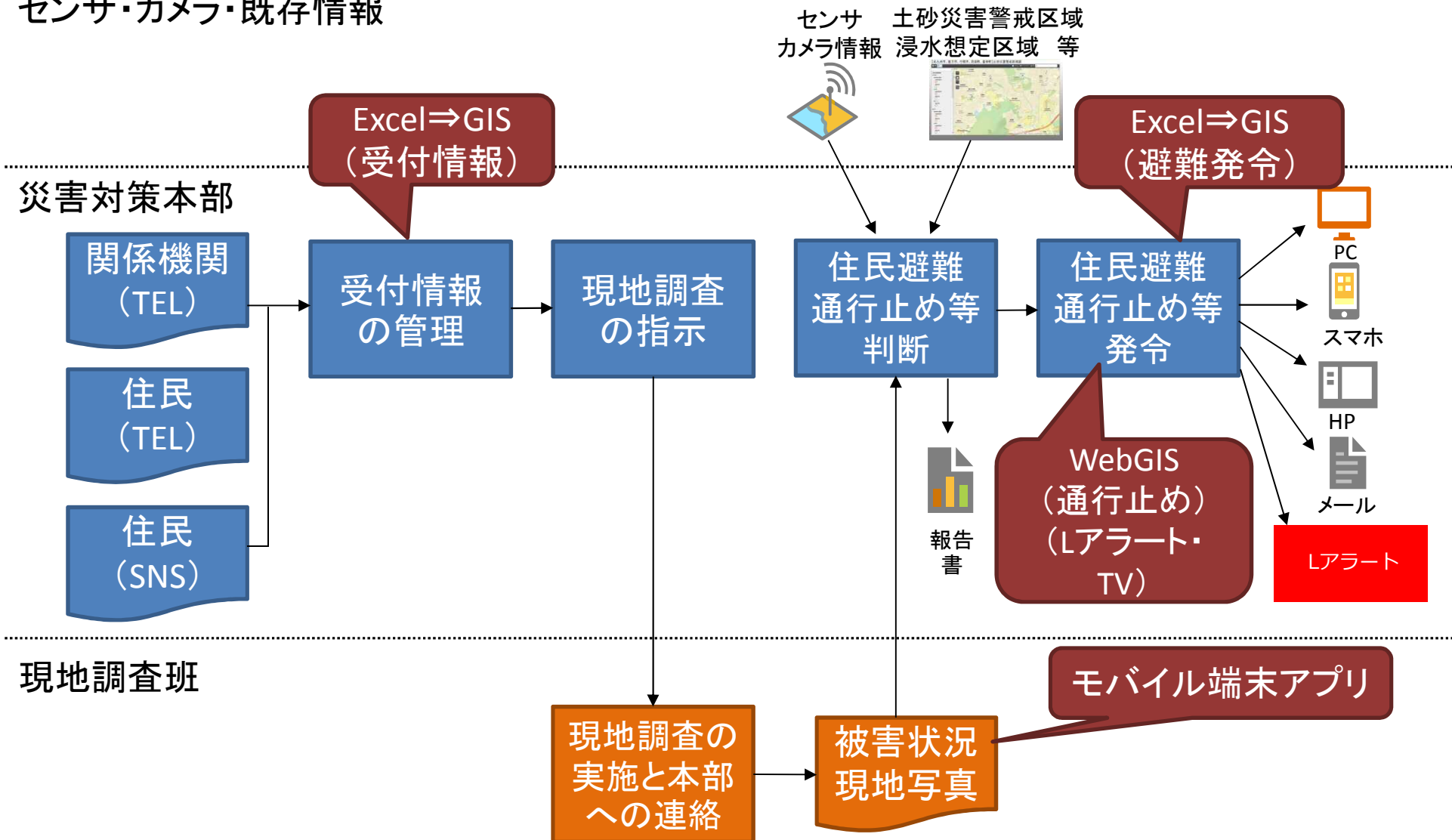
住民に公開するGIS



合計で128主題図を運用中！

地理空間情報PF“G-motty”がある中で、平成27年度の総務省「G空間防災システムとLアラート連携推進事業」で作成したG空間防災システムについて紹介します。

3-4 災害発生直後の自治体災害対応業務の流れ

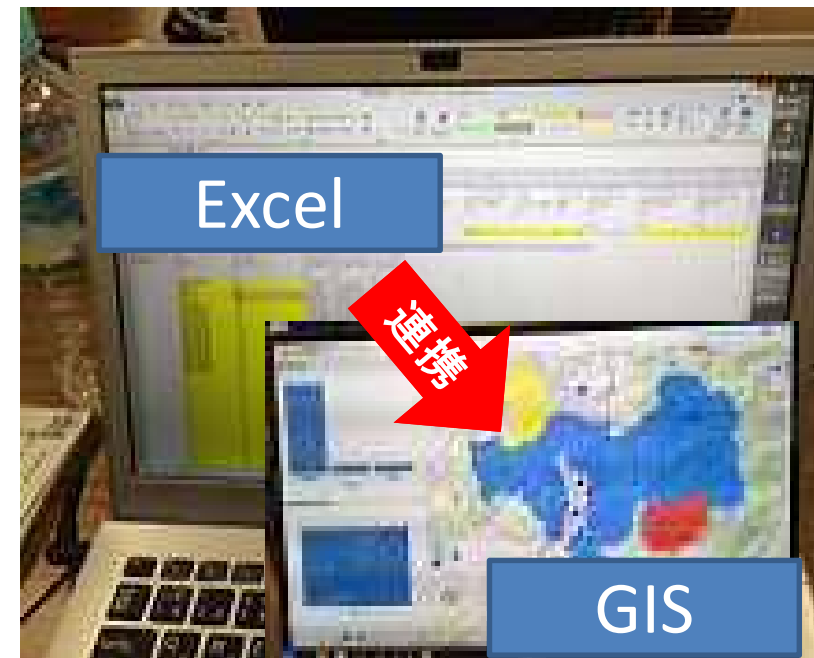


手書きの個票で管理していた受付情報や避難発令情報をExcelで入力し、地理空間情報PFへ連携！！



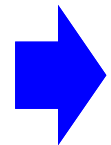


被害受付情報の入力



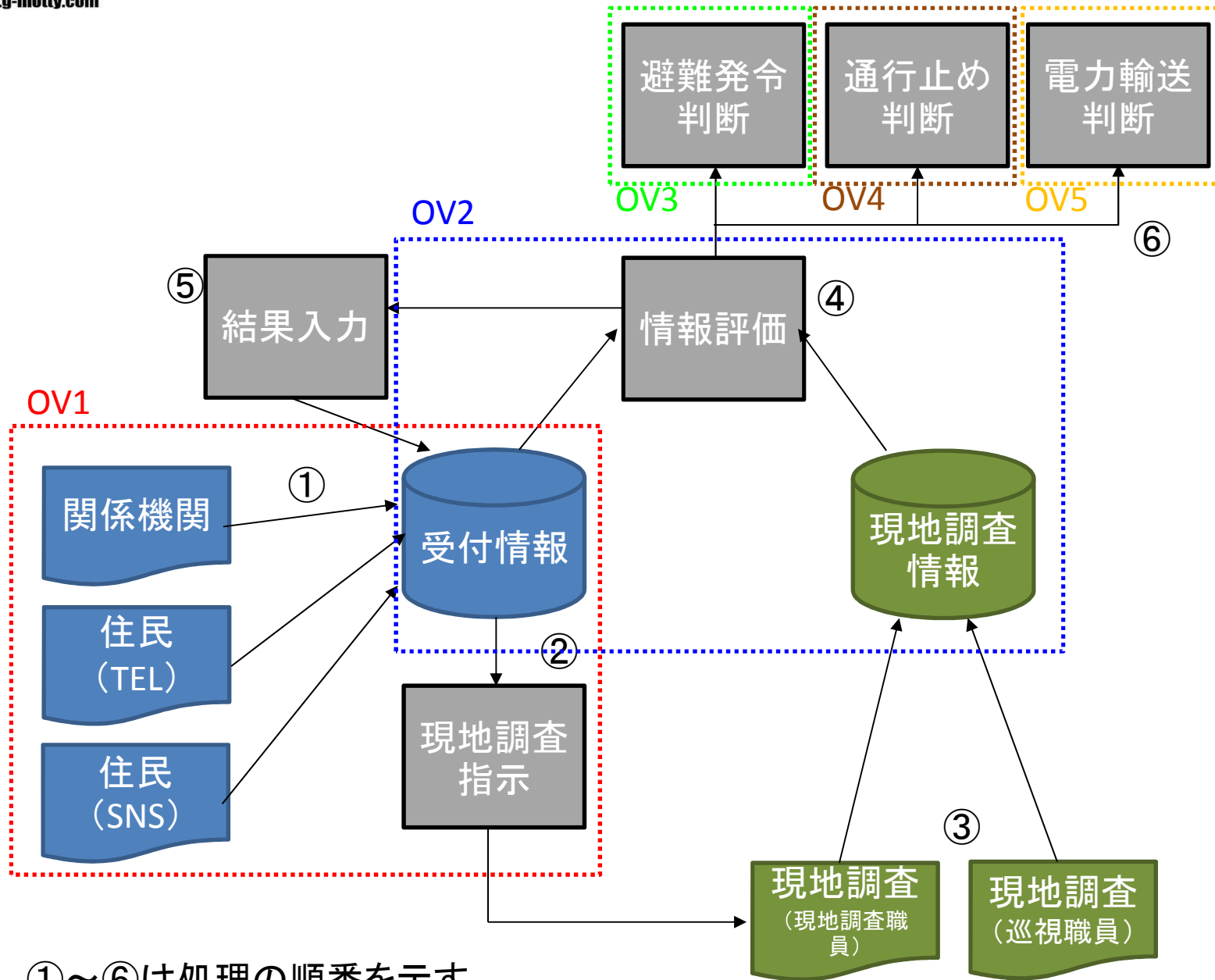
避難発令情報の入力

自治体職員が使い慣れたExcelから地理空間情報PFへの連携を実現



Excelだと抵抗感がない(12/9 GIS広域勉強会 参加者意見)

明日(5/27)に自治体セッションで実際に扱っていただけます！
よろしければ、ご参加ください。

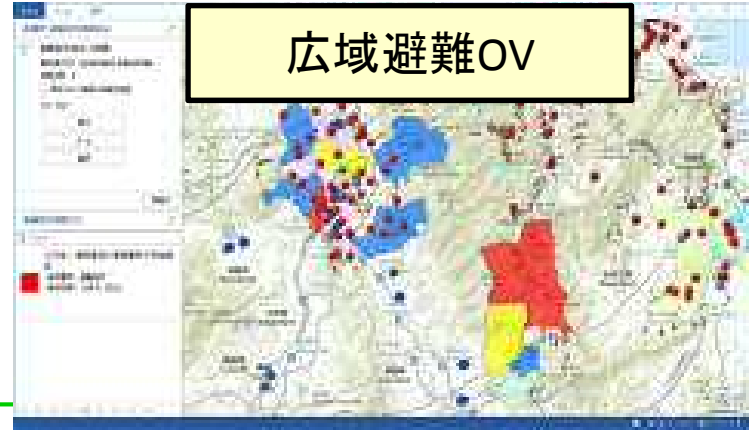
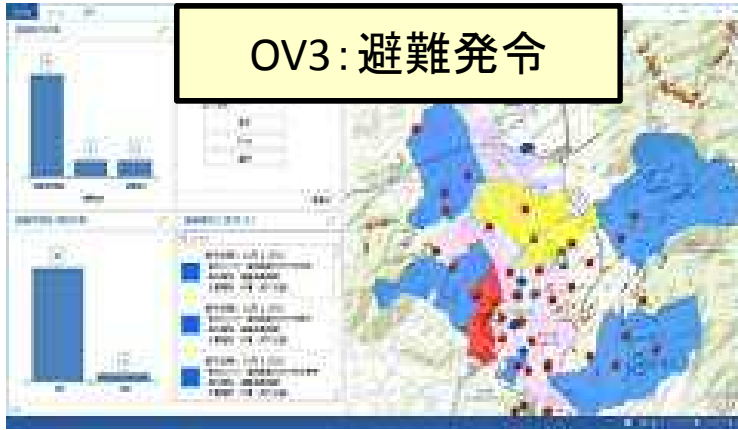


①～⑥は処理の順番を示す





3-7 状況認識の統一化を図るオペレーションビュー



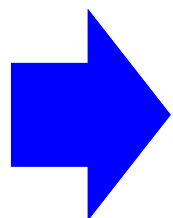


①自治体ごとに災害情報現地報告アプリを作成

②アプリの項目などの内容は自治体間で同じものを使用

③写真等のファイルを添付可能な仕組み



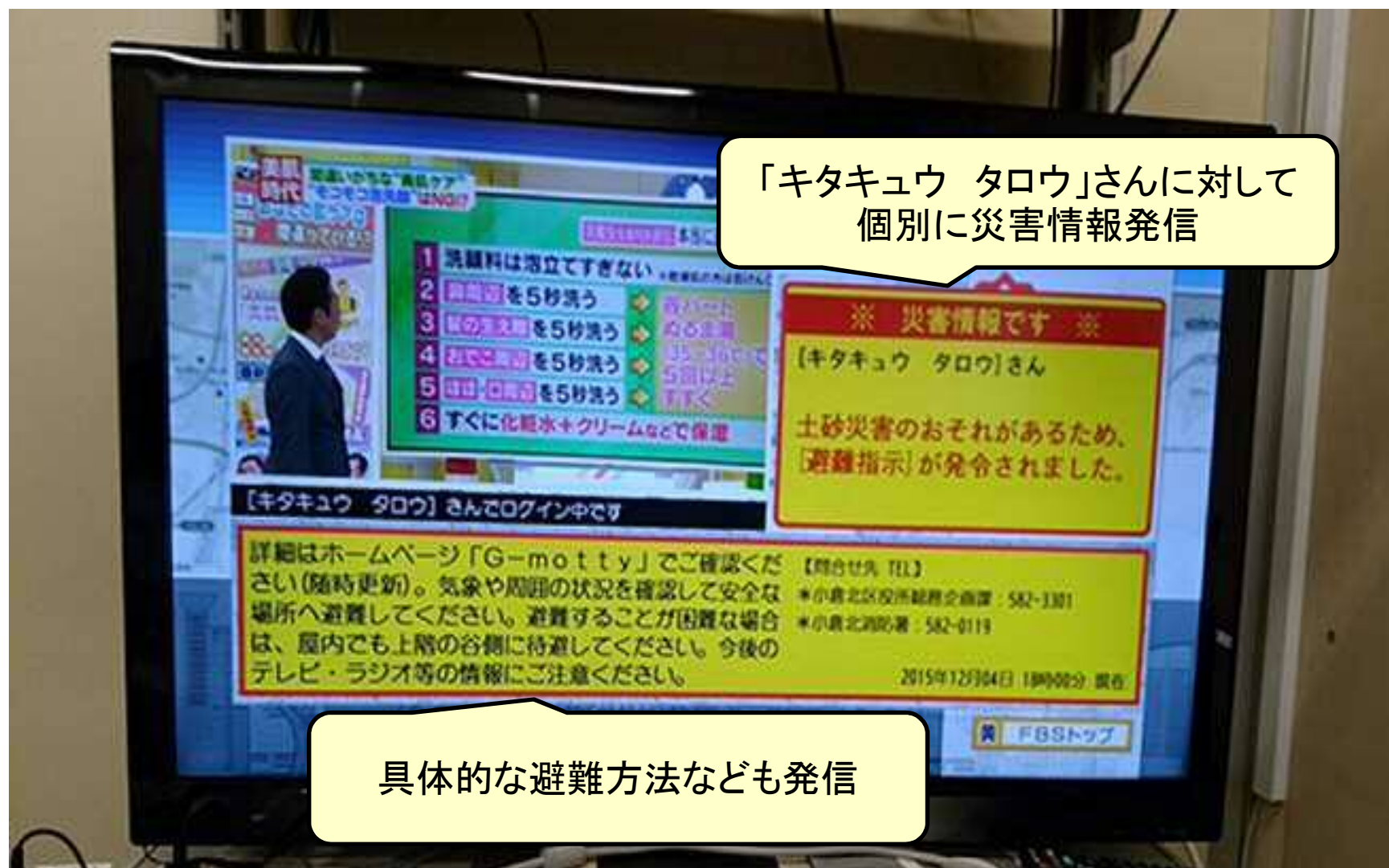


地理空間情報プラットフォームとTVが双方向に情報連携し、メディアミックスを実現する『新しいメディア』です！

一体何かできるの？



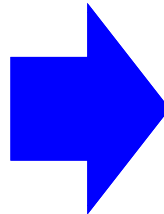
①避難発令情報を事前に登録した視聴者へ伝達(G-motty⇒TV)
⇒G-motty Mobileを利用した避難誘導支援



②TV局が保有する情報のG-mottyへの連携(TV⇒G-motty)
⇒TVで紹介されたお店をG-mottyやG-motty Mobileで実際に行く！



FBSのTV番組



G-mottyでマップ化



③G-mottyが保有するイベント情報をTVから配信(G-motty⇒TV)
⇒詳細を知りたい人は、2次元バーコードからG-mottyで内容確認



詳細を見たい場合は、
G-mottyへ

ジャンルで検索も可能!

G-mottyの本日のイベントを表示

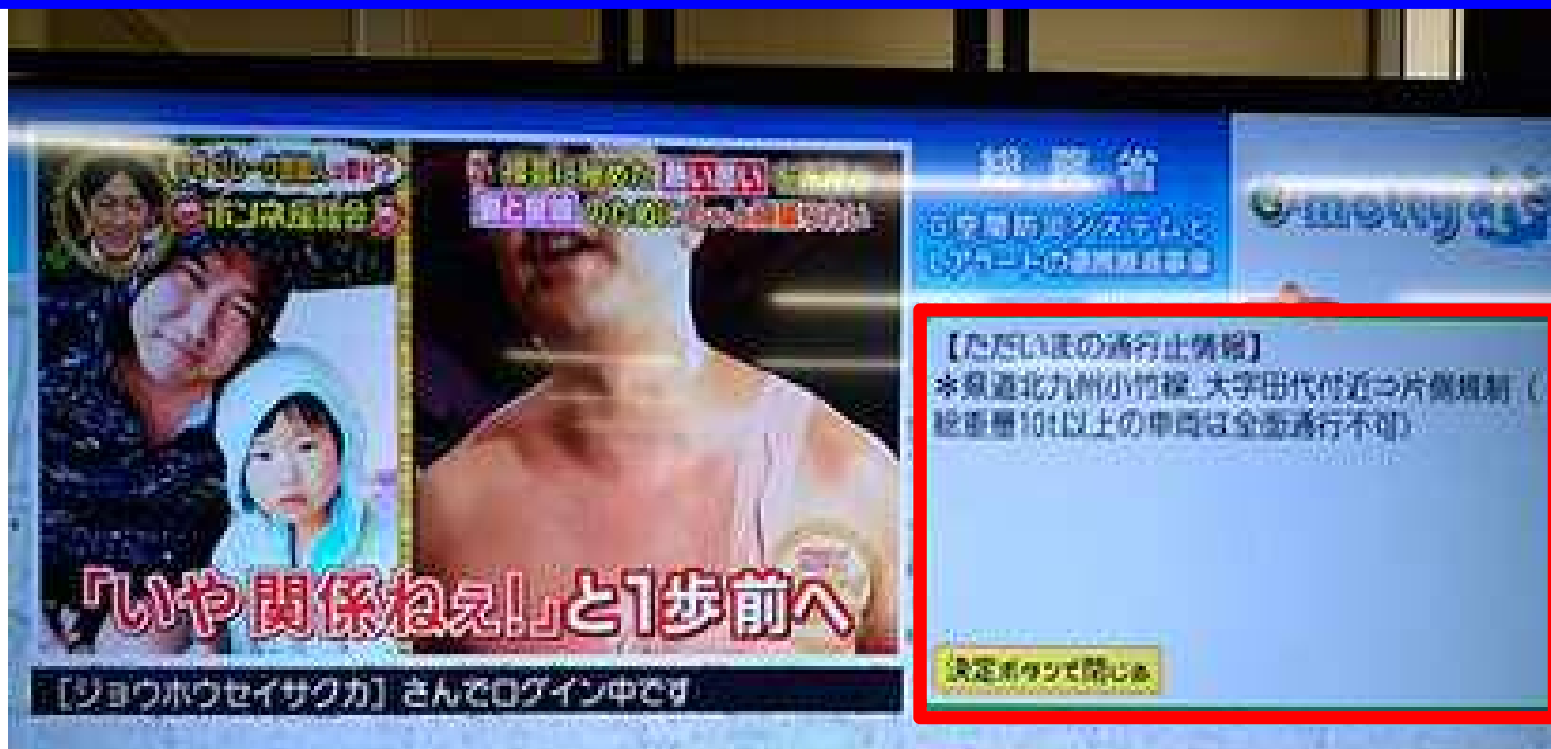
- 今日のイベント情報) 全てのカテゴリー
- [他] 「響く!」マンガ展 [11月21日-2016年1月24日]
- [他] 松井文庫の名品展 [12月1日-2016年1月31日]
- [他] 企画展 炭坑と文芸 地産の炭にキラリと汗が輝く [11月10日-1月10日]
- [その他] 紫川の岫と汐でオープンカフェ (社会実験) [11月9日-12月28日]
- [他] 小島イリスネーション2015 [11月6日-2016年1月11日]

④G-mottyが保有する季節情報をTVで紹介
⇒詳細を知りたい人は、2次元バーコードからG-mottyで内容確認



詳細を見たい場合は、
G-mottyへ

⑤G-mottyで保有する通行止め情報を発信(G-motty⇒TV)



【課題】

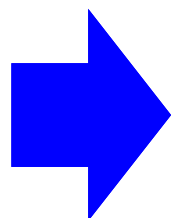
自治体が管理する道路情報しか表示できない。

【解決方法】

道路交通情報センター等と連携する必要がある。



今回の成果で最も大きいものは、『TV⇒G-motty』の情報連携の仕組みを構築したことと言っても過言ではありません。



TVをアウトプットとしてだけでなく、インプットとして利用できることを意味します！



TV番組を見ていて、行きたい！と思ったお店を忘れてしまい、行けなかったという残念な思いをしたことはありませんか？



番組で紹介したお店



●●ラーメン
こってり濃厚スープが絶品！

ここに行きたい



▲▲ラーメン
G-mottyを見て来店の方は餃子サービス

ここに行きたい



- ① G-motty TVで「ここに行きたい」ボタンを押すと、G-mottyの「マイマップ」へデータが連携される。⇒行きたいお店を自分だけのマップに保存できる
- ② 行きたいときにG-motty Mobileでマップを読み出しお店へ

- 1 北九州市が考えるG空間・GISの普及に必要なモノ
- 2 北九州地域におけるG空間のこれまでの歩み
- 3 地理空間情報プラットフォームG-mottyと
地域情報発信メディアG-motty
- 4 熊本地震における後方支援
- 5 北九州地域の今後の動き

G-motty 熊本地震関連ページで公開しているマップ

- ①給水所マップ
- ②開設避難所マップ
- ③携帯電話充電スポットマップ
- ④営業中の銭湯マップ
- ⑤無料Wifiスポットマップ

避難者向け情報

支援業務従事者・ボランティア向け情報

- ⑥被害箇所動画マップ(国土地理院データ)
- ⑦土砂災害被害箇所マップ(国土地理院データ)
- ⑧被災地の状況マップ(兵庫県立大学との連携)

被害状況把握・研究者向け情報

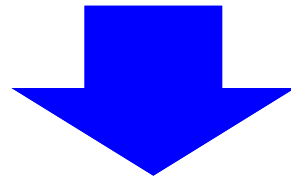
- ⑨救援物資収集場所マップ

支援をしたい人向け情報



【これまでのGISを利用した支援業務】

- 研究者チームと民間企業が連携した罹災証明書の発給業務支援
- 無償の被災者支援用システムの導入支援



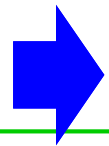
これはこれで必要な支援です！

【G-mottyで実施したGISを利用した後方支援】

- 発災直後の被災者への情報提供
- 支援業務に従事する自治体職員、ボランティアなどへの情報提供

● 被災した自治体が災害対応業務で手が回らなかった被災者や支援業務に入る自治体職員等への情報提供を地図を利用して実現した。

● 似たような情報提供は行われていたが、北九州市の名前で熊本地震関連ページを運営していることと日々動的情報を更新しているので、信頼性が高かった。



地理空間情報プラットフォームG-mottyがあったため実現できた。
今後は、G-mottyを利用した後方支援活動を広げていきたい！





政令指定都市会で熊本市を支援することになり、政令市職員が避難所運営を行っている。GIS(モバイル端末アプリ及びWebGIS)を利用して避難所と現地支援本部の情報共有を実施。

現地支援本部

北九州市で開発し、他の政令市でも使用！

各避難所



【熊本地震】避難所（中央区）

熊本国府高校
 経度:130.727954 緯度:32.788028
 水曜日の 11:29 に編集

従事内容等
 学校及び熊本市との調整、食事の用意、

食事
 避難者と同じ

仮眠・休憩場所
 体育館、セミナールーム

通信手段
 災害用携帯、個人携帯、Wi-Fi(docomo)

入浴施設
 なし（避難者は近くの銭湯もしくは温泉）

周辺施設
 くらし館（スーパー）、新星堂（ドラッグス）



熊本国府高校

場所名	所在地	従事内容等	食事	仮眠・休憩場所	通信手段	入浴施設	周辺施設	その他	北九州市対応避難所	EditDate	対応自治体名
西山中学校	中央区島崎1丁目27-1	熊本市との連絡調整 外部からの避難者等の見送対応 感染症対策 学校主催	自衛隊の炊き出し 外部からの差し入れ など	体育館、セミナールーム	Wi-Fi (au、ソフトバンク)	歩いて5分以内に銭湯あり	セブンイレブン(徒歩5分)	学校主催で運営しており、自衛隊とPTAと学校が協力して炊き出ししている。	1	4/27/2016 11:01 午前	川崎市

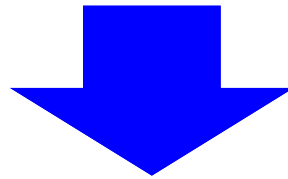
CSVファイル出力

ID	場所名	従事内容等	食事	仮眠・休憩場所	通信手段	入浴施設
94	熊本工業高校	物資搬入・食事配給の手配	避難者と同じ(炊飯物資)	体育館	Wi-Fi 熊本市公用機器	近くに銭湯有(徒歩5分)
95	熊本市総合体育館・青年会館	物資の受け入れ・配給	カプラー等からの支援物資	調理室	Wi-Fi (ドコモ)	なし
96	熊本商業高校	物資の受け入れ・配給	カプラー等からの支援物資	調理室	Wi-Fi (ドコモ)	なし
97	砂敷小学校	物資・食糧の手配	ボランティアの炊き出し	6時30分~11時 体育館	2階体育館	熊本市公用機器、個人携帯
98	熊本国府高校	学校及び熊本市との調整	避難者と同じ	体育館、セミナールーム	災害用携帯、個人携帯	なし(避難者は近くの銭湯)
99	出水小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	携帯のみ	熊本市にない
100	出水中学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
101	出水小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
102	出水中学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
103	西山中学校	熊本市との連絡調整 外部からの避難者等の見送対応 感染症対策 学校主催	自衛隊の炊き出し 外部からの差し入れ など	体育館、セミナールーム	Wi-Fi (au、ソフトバンク)	歩いて5分以内に銭湯あり
104	江原中学校	熊本市との連絡調整 外部からの避難者等の見送対応 感染症対策 学校主催	自衛隊の炊き出し 外部からの差し入れ など	体育館、セミナールーム	Wi-Fi (au、ソフトバンク)	歩いて5分以内に銭湯あり
105	五福小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
106	砂敷小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
107	砂敷小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
108	砂敷小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
109	砂敷小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし
110	砂敷小学校	物資管理、食糧調達	カプラー等からの支援物資	体育館の炊き出し	Wi-Fi (docomo)	なし



【北九州市で実施していたモバイル端末アプリ】

- 建設局平常時事故調査用モバイル端末アプリ
- 河川管理用モバイル端末アプリ
- 災害時現地調査用モバイル端末アプリ



危機管理室の職員から避難所運営用のモバイル端末アプリが欲しいとのオーダーがあった

【G-mottyで実施したGISを利用した後方支援】

- 避難所運営用モバイル端末アプリ

【解決すべき課題】

- 派遣された職員が避難所がどこにあるか分からない
- 情報を避難所と現地支援本部間で情報共有を行う必要がある
- 避難所にPCが無く、電子データを扱える端末は個人用のスマホのみ

- これまでGISの利用を公式的に位置づけていたからこそ実現できた
- 平時からモバイル端末アプリを利用していたため、利用したいというオーダーが挙がって実現できた

「GISを使える！」の定義

災害時の刻々と状況が変わる中で、

- ①動き出せること(『できるかできないかではなく、やるかやらないか』が問われる。)
- ②状況(支援先自治体なども含む)に合ったGISの利用を提案できること(この時点では、できることが大前提)
- ③「今解決すべき課題」のうち、GISを利用することが効果的であることを見極め、GISを当てはめることで課題を解決できること
- ④作ったものは、覚悟を持って動的な変動に合わせて更新すること

そのために必要なこと

GIS・G空間を自治体内で普及させるために必要な要素が全て必要！
なかでも、「公式化された組織・体制」で対応に当たることが重要。

⇒『公式化されていない』モノは、『災害時には信用されない！』



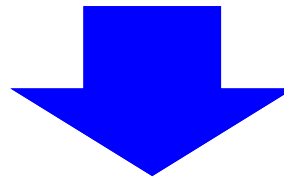
- 1 北九州市が考えるG空間・GISの普及に必要なモノ
- 2 北九州地域におけるG空間のこれまでの歩み
- 3 地理空間情報プラットフォームG-mottyと
地域情報発信メディアG-motty
- 4 熊本地震における後方支援
- 5 北九州地域の今後の動き

●産学官が連携した枠組みによる普及活動の必要性

GIS・G空間技術は、現実世界をモデル化できる技術です。

そのため、自治体だけがうまく活用できればそれで良い訳ではありません。

幅広い層の人々、団体が使いこなせるようになると今まで以上に皆さんの利便性が向上するのではないのでしょうか？

**●産学官が連携した枠組み****●その枠組みによるGIS・G空間を普及を促進する事業が必要**



●研究公募の募集

- ①募集時期 未定(準備でき次第G-mottyから配信します)
- ②事業概要(予定)
ArcGIS Online(ESRIジャパン)、Zmap-town II(ゼンリン)、北九州市クラウド(北九州市)を1年間使って地域情報を発信するモデルの構築
- ③対象 民間企業、大学・高校等教育研究機関、自治体など
※自治体と連携したものが望ましい。

●(仮称)G空間サミット2016の開催

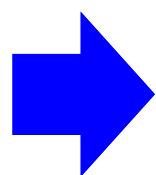
- ①開催予定 平成28年11月中旬～下旬(予定)
- ②開催場所 北九州市(予定)
- ③内 容(予定)
 - ・自治体、大学等教育研究機関の事例発表
 - ・ワークショップ(住民向け)、技術ワークショップ(自治体・大学等)
 - ・古地図×歴史×街歩き ⇒ 将来的に街歩きサミットの実現!



●被災者台帳システムの標準化の実現

平常時から固定資産税家屋業務や住民課窓口業務等でGISを利用した業務改革の実現とその流れで災害が発生した場合に『遅滞なく』り災証明書を発給できる仕組みを構築するとともに、標準化を行う。

庁内で被災者台帳をどの部署が管理するかで揉めていませんか？



庁内でのオーソライズ方法や平常時と災害時の運用方法も含めた標準化を行います！

G-mottyでは、マニア向けGISではなく、自治体、大学等研究機関、地域住民も巻き込んだ幅広い層の人たちに「役に立つ！」GIS・G空間技術を普及していきます！



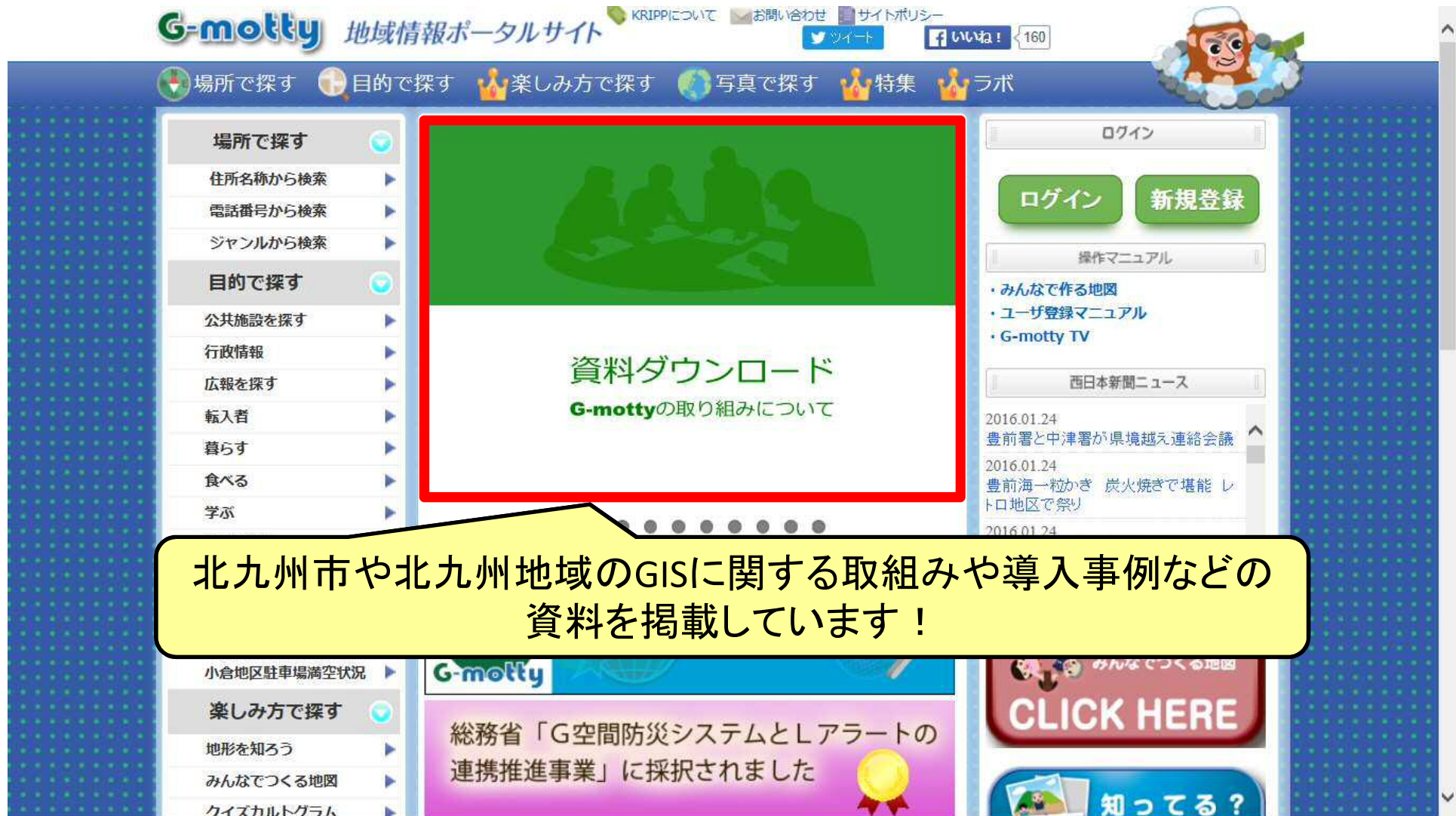
G-mottyの更新情報やG-mottyに関する情報

<https://www.facebook.com/gmotty>



FacebookでG-mottyの最新情報を発信しています！
ぜひアクセスしてみてください！





場所を探す 目的を探す 楽しみ方を探す 写真で探す 特集 ラボ

場所を探す
住所名称から検索
電話番号から検索
ジャンルから検索

目的で探す
公共施設を探す
行政情報
広報を探す
転入者
暮らす
食べる
学ぶ

楽しみ方を探す
地形を知ろう
みんなで作る地図
クイズカルトグラム

資料ダウンロード
G-mottyの取り組みについて

ログイン
新規登録

操作マニュアル
みんなで作る地図
ユーザ登録マニュアル
G-motty TV

西日本新聞ニュース
2016.01.24 豊前署と中津署が県境越え連絡会議
2016.01.24 豊前海一粒かき 炭火焼きで堪能 レトロ地区で祭り
2016.01.24

小倉地区駐車場満空状況

総務省「G空間防災システムとLアラートの連携推進事業」に採択されました

CLICK HERE

知ってる？

地域情報ポータルサイトG-motty(ジモッティ)トップページ

<http://www.g-motty.com>

ご清聴ありがとうございました。



「いのうくん」



北九州市のGISに関する取組みは、
<http://www.g-motty.com>

北九州市総務局情報政策課

塩田 淳

tel:093-582-2144

メール:atsushi_shiota01@city.kitakyushu.lg.jp

